

まえがき

まずは本書の題名についてお話しします。先代錢天牛が昭和54年に刊行した「ザ・占星術」という著書をもとに執筆しました。その「ザ・占星術」ですが、どういうわけか天体の一部の記述が欠けているような感じになっている部分があったので、それを補充した内容になっております。

さて、本書をお手に取った皆様の中で、運勢の良し悪しというものに興味がないという方はいないと思います。それについて1つの方法で探っていこうではありませんか、というのが本書の狙いです。

占術の種類ですが、命（めい）、ト（ぼく）、相（そう）と大きく3種類に分けられます。命は生年月日や生まれた場所などあらかじめ決められた数値から運勢を紹介するもので、四柱推命や算命学、九星気学、紫微斗数などがそれに該当します。

トはそのときその場偶然の結果により運勢を見ていくもので、易やタロットなどがそれに該当します。相は人の体など見た目の様子から運勢を見る方法です。手相がその代表選手ですよね。風水や姓名判断も相に該当します。

これから扱う西洋占星術はその中だと命に当たります。決められた星の動きと位置で運勢の良し悪

しを判断するのですが、いざ自分でそれを調べると結構大変な作業になるのですね。本著では、木星、土星、天王星の星の動きを1950年から2050年まで掲載した天文暦（星の位置を表すための表）を巻末に用意しております。これらの星の動きだけでも大体の運勢の良し悪しを確かめることができるのです。

金星や火星が特に恋愛運で使用されることをよく見かけますが、もちろんそういった天体（以下星のことをそう表現します）の動きは重要です。

しかし、大きな幸運と不運を表すのがそれぞれ木星と土星なのです。これらの星の動きはもつとも大切であると私は考えます。木星、土星、天王星以外の天体の動きが知りたければ、天文暦をご購入いただくか、星の地図になりますホロスコープ（円形の図）を自動的に出してくれるサイトでお確かめになります。

また、ホロスコープを手書きで作成する際には前述の天文暦が必要になってきます。私は日本占星天文暦と21世紀占星天文暦（いずれも魔女の家BOOKS刊行）をおすすめしております。もちろん他の天文暦でも構いませんが、海外の天文暦ですと時差計算の必要が生じますので日本時間で書かれたもの方がいいですね。

また、ご紹介しました天文暦ですが、数字だらけなので最初は何がなんだか分からないと思います。それは異常でもなんでもありません。むしろ分かるほうがおかしいです。実際に読み方を把握すれば慣れてきますから、まずはホロスコープを書いてみるところからやってみましょう。